



ザ・レッドクロス みずうみ

日本赤十字社島根県支部 みずうみ赤十字奉仕団

「頭の下がる思い」

日本赤十字社島根県支部 事務局長 岸川 慎一



本年四月、事

務局長に就任
しました岸川
でございます。
よろしくお願
いいたします。

大塚委員長さんをはじめ団員の皆様方には、日頃から赤十字の活動に対して深いご理解と温かいご支援を頂き、心よりお礼申し上げます。

また、赤十字会員として赤十字活動資金となる会費へのご協力をいただいておりますことに、重ねまして深く感謝申し上げます。

みずうみ赤十字奉仕団は、昭和三十一年に石倉トミ氏を委員長に発足されて以来、永年にわたり地域に根差した様々な奉仕活動を地道に続けてこられたと伺っております。奉仕団の五十周年記念誌である「奉仕の道―五十年のあゆみ」を読み、また、四月の総会へ出席以降、その活動を実際に拝見させていただき、皆様方の尊い奉仕の道に触れ、改めて頭の下がる思い

でいっぱいになりました。

余談ですが、私は昭和三十三年生まれで今年六十歳。奉仕団はそれ以前から活動されてきているのですね。また、記念誌の中にお世話になった恩師の顔を見つけた時には、あまりの懐かしさに胸が熱くなったのを覚えております。

さて、近年、県内外を問わず大きな自然災害が多発しております。この度の「平成30年7月豪雨災害」に対しては、早々に奉仕団から大塚委員長をはじめ代表の方々が来所され、義援金を託していただきました。誠にありがとうございます。

支部では発災後直ちに、物的支援として災害用毛布五百枚を岡山県支部にお届けしました。また、松江・益田両赤十字病院から医療救護班、広島県支部へ支援要員、このころのケア班をそれぞれ派遣するなど、マンパワーの支援を行うとともに、県内外からの義援金受付を行っているところであります。

皆様方にはこれまでも災害のた

びに義援金を託していただくとともに、機会あるごとに様々な募金活動を行っていただいております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

私は、今年の三月に県職員を退職し四月からこの赤十字の道に関わらせていただいておりますが、皆様の活動を拝見するにつけ、奉仕団をはじめ各種ボランティアや県民の皆様方に支えられて赤十字活動が行われている、ということをつくづく感じさせられます。私としてもその伝統に育まれた姿に学び、島根の赤十字活動の発展に精一杯取り組んでまいりたいと思います。

結びに、今後も引き続き、皆様方には「奉仕のころ 花と積み」の精神のもと、くれぐれもご自愛いただきながら、素晴らしい活動を続けていただきますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



パンフラワー「カラー」
浜田 光代

平成三十年度 総会

四月二十四日(火) 日本赤十字社島根県支部会議室に於いて、県支部から三名、団員十二名の出席のもと総会が開催された。

まず始めに赤十字奉仕団信条唱和、みずうみ赤十字奉仕団国歌斉唱、大塚委員長の挨拶と続いた。そして県支部の岸川事務局長より激励のお言葉を頂いた。次に表彰伝達式で「特別会員章」が原田美智子さんに授与された。

議事に入り、二十九年度の事業報告、決算報告、三十年度の事業計画、予算が原案通り承認された。

最後に役員改選に当たり選考委員の佐藤さん、善波さんより案を示され、副委員長松本淑子さん、書記原田美智子さんが選出され、他の役員は留任で承認された。

総会終了後「ろんぢん」にて昼食会をし、午後は「山陰初の育児院創始者(福田平治氏)」と盲啞学校設立者(妹の福田与志さん)の功績について」を聴講し、その後雨の中社会事業のゆかりの地巡りをして終了した。



赤十字のシンボル
イトスギ

表彰伝達

大塚委員長と岸川局長の挨拶に続いて原田美智子さんが特別会員章を受章、表彰されました。原田さんはみずうみ奉仕団に入団以来、病院ボランティアや乳児院ボランティア等々に積極的に取り組まれ、また今年度からはみずうみ奉仕団の書記として活躍していらっしゃいます。



特別会員章受章

地雷撲滅運動

世界赤十字デーの五月八日に対人地雷犠牲者救援のための街頭募金を行いました。支部の方々とJR松江駅の協力を得て、延べ十七名で午前十時から午後一時まで松江駅前で市民の方に呼びかけました。地雷の恐ろしさと募金の趣旨を口々に声を張り上げました。

紛争時に埋められた対人地雷は、大砲などとは違い一般市民を無差別に死なないように負傷を負わせ犠牲者に長い間苦痛を与えます。世界にはまだ沢

山の地雷が埋まっており、今でも人を狙いつづけ、戦争が終わってもその国の復興を妨げています。



JR 松江駅前での募金活動

寒い中にもかかわらず、私達の呼び掛けに足を止め快く応じてくださった方の救援金三万七千三百円は日赤島根県支部を通じて地雷犠牲者救援活動に役立てられます。ご協力いただいた方に感謝申し上げます。地雷に苦しむ人がいなくなる世界を心より願っています。

ちようちよキャンペーン

対人地雷全面禁止条例(オタワ条約)加盟をよびかける「ちようちよキャンペーン」も我々みずうみ奉仕団の取り組みとして長年続けてきました。か弱い蝶のひと羽ばたきが群をなして飛ぶと大きな影響を及ぼす、との考えから一人一人が願いを込めてキャンペーンに参加し、昨年は三千七百六十七羽を地雷撲滅運動に尽力されているリズムネットワークに送らせてもらいました。

六月九日、日赤支部奉仕団委員長協議会に参加させていただきましたが、



石橋博さんとゆかりの地めぐり

いて深く研究していらつしやる石橋博さんからお話を聞きました。鳥取市出身で松江で印刷業を営む福田平治さんを社会事業にかりたてたの

総会の日午後「山陰社会事業の父と呼ばれる福田平治さんとその妹で同じく社会事業に貢献した福田与志さんのゆかりの地めぐり」に団員十一名が参加しました。

福田兄妹の功績についての講演を聞いて

原田 美智子

このちようちよキャンペーンについてみずうみ奉仕団としての取り組みを話しましたところ、他の二団体から自分たちも協力したい旨の発言がありました。他団体と活動が共有でき、また同時により多くの人が地雷犠牲者に救援の手を差し伸べて下さることを嬉しく思いました。

(松本)

は、明治二十六年の大水害です。親を失い、衣、食、住に事欠く子供たちを見るにみかねて、明治二十九年に島根県で初めて児童養護施設「松江育兒院」を開設し、以来、私財を投げうって恵まれない多くの子供たちの育成に力を注いでこられました。

福田与志さんは小学校の教員であった身から、目や耳の不自由な子供の教育に深い関心を持ち、兄の平治の物心両面の支えもあって、明治三十八年に「私立松江盲啞学校」をスタートさせました。

石橋さんの懇切丁寧な説明を聞いた後、ゆかりの地めぐりを行いました。ゆかりの地は◎最初の育兒院（殿町・センチュリービル付近）◎二番目の育兒院（外中原町・阿羅波比神社の元宮司宅）◎最初の盲啞学校（母衣町・法務局南側）◎福田与志さんの胸像（西浜佐陀町の島根県立盲学校）等で、雨の中石橋さんの熱心な先導で、その当時の状況に思いをめぐらせながら回りました。



福田与志胸像の前で

「明治期の松江に居住した小泉八雲はその後の松江の観光業に多大な貢献をし、福田平治、与志兄妹は当時の松江の社会事業に幾多の業績を残した」と私の友人が話すのを聞きながら、福田兄妹についてはその内容を深く知る事なく過ごしてきました。

この度の企画で、偉大な先人の功績を知ることができたことに感謝し、みずうみ奉仕団の活動に福祉の心を持ち続けることの大切さを改めて感じました。

平成30年7月豪雨災害

義援金贈呈

七月上旬の豪雨により西日本、特に岡山・広島・愛媛は甚大な被害に見舞われました。土砂災害等により二百余名の方が亡くなり、数名の方が行方不明でまだ捜索が続いています。被災者の方にお見舞申し上げ七月二十七日、みずうみ赤十字奉仕団から日赤島根県支部を通して義援金を贈らせて頂きました。



災害義援金の贈呈

全国赤十字大会に参加して

青木 八恵子



島根県の参加者

五月十六日、東京明治神宮会館において、平成三十年全国赤十字大会が開催されました。今年は皇后陛下が名誉総裁としてご臨席される最後の大会でした。名誉総裁皇后陛下各名誉総裁のご臨席のもと、全国の赤十字関係者千九百名、島根県からは十八名が参会し、みずうみ奉仕団からは浜田光代団員と参加させていただきました。とても厳肅な雰囲気の中で式典が挙行されました。式典では個人、団体代表十三名に赤十字有功章、二名の方に社長表彰が授与されました。受賞された方々には皇后さまから直接賞状と有功章が手渡しされました。女性皇族方も授与が行われるたびに拍手をされ、その功績を称えていらっしゃいました。実践活動報告では、名古屋第二赤十字病院副院長兼看護部長の伊藤明子氏が、長きにわたり紛争地域を含む国内外での看護活動や災害救助の取組みを報告さ

れました。伊藤氏は「フローレンス・ナイチンゲール」記章も受章されたすばらしい方でした。また東京都荒川区の中学校青少年赤十字メンバーの小林正英さんが、東日本大震災を機に防災意識の向上をはかり、地域の絆を大切に自分達が出来る支援活動の取組みについて発表。赤十字奉仕団員信条にある「すべての人びとのしあわせを願う陰の力となって世界の平和につくす」という言葉どおりの実践活動をされている受賞者の方々の活動に感銘を受けました。皇后陛下が退席される際に、皇太子妃殿下に手を差しのべられ、おふたりで客席に深くお辞儀をなさり妃殿下を紹介される仕草をされました。その時のご様子を『美智子皇后さまから雅子さまへの世紀のバトンタッチであった』とテレビで放映されました。平成元年から三十年間、日本赤十字社の名誉総裁としてお務めになられた皇后陛下のあと名誉総裁になられる雅子妃殿下にすべてを託するというお気持ちが読みとられ、会場はいちだんと大きな拍手の渦でした。私も心から感動し胸が熱くなり込みあげるものがありました。このような機会に参加し、忘れ得ぬ貴重な経験をさせていただきました事に感謝しつつ緑多き神宮の杜をあとにしました。

古布ふきんづくり



ふきんづくり

十数年にわたって続けている古布ふきんづくりを今年も六月二十八日に行いました。自宅に眠っている古布を持ち寄り、ほぼA四サイズの大きさに切り、使ってくださいる施設の方のことを思い誠意を込めて作業しました。この日は参加十二名、皆慣れた手つきでどんどん作っていました。みかん箱よりもちょっと大きめのダンボール箱に四箱余り。これはお年寄りの方の体拭きや、お尻拭きに使われると聞いていますので、身体に負担をかけないような優しいふきんに仕上げます。年度末八箱あまりを四つの施設に届けるととても喜んでくださいます。地味な活動ですが、一人一人のところが、陰の力が皆様の喜びにつながる、これこそ私達赤十字奉仕団員の信条を映し出した活動だと自負し、これからも続けていきたいと思っています。(善波)

Ⅱ 松徳学院高校との交流 Ⅱ

災害時に於ける非常食作り

災害の多い昨今、被災された方を思うと胸がいたみます。私達にできることは避難所で過ごされている方々が少しでも快適な暮らしに近づけるようお手伝いすることだとおもいます。松徳学院の生徒さんとういう話をしながら、非常食作りの知識・方法を学ぶ機会を毎年持っています。

平成二十九年十月の非常食作りの生徒さんの感想文

◆先日はわざわざ松徳学院に来て頂き本当に有難うございました。私は普段あまり自炊などしないので、野菜を小さく切ったり、お米のたき方などうまくできない私に、丁寧に教えて下さり、とてもわかりやすく、みんなもわいわいと楽しく料理ができました。それに、ハイゼックスでご飯ができることがわかり、すごく印象に残っています。楽しい時間を有難うございました。

(OH女子)

♣カレーライスのつくり方を教えて下さって有難うございました。ハイゼックスに米を入れ、空気を抜いてゴム栓

をし、熱湯に入れることは普段やらないことで、うまくできてよかったです。試食もおいしかったです。今回の体験を忘れずに、今後も活かしたいです。

(IN男子)

♠赤十字社職員の方の話を聴いて、もしも自分の身に災害が起きたらどうしたらいいか、よくわかりました。そして、ハイゼックスでカレーライスをつくるカレーのつくり方は、普段と違う作り方で参考になりました。もし災害があったときは、学んだことを活かしたいです。

(OH男子)

♥災害時の非常食つくりでわからないことがあったときに、みずうみ奉仕団の方が丁寧に教えて下さり、うれしかったです。島根ではあまり災害が起きないからわからないこともありましたが、今回災害時に作れる料理を色々教えてもらって、もしこれから災害が



ハイゼックスを使って

起きた時には、今回学んだことを思い出して作りたいです。本当に有難うございました。来年もお会いできるのを楽しみにしています。

(AS女子)

加藤喜美枝様 荏田和子様を偲んで…

六月十八日加藤喜美枝様(享年八十七歳)の訃報を聞き、大変驚きました。最近お目にかかり談笑したばかりなのにあまり突然のことで言葉を失いました。ここ数年足を悪くされ、通常の生活が大変困難であると言われていました。リハビリ等に励み早く良くなり「みずうみ奉仕団」の活動に参加したいと、口癖のようにおっしゃっていました。又、沢山の趣味を持たれ、洋裁はプロ級、地域のコーラス部に所属され、年末恒例となっている「第九」に何回か出演され、美しい歌声を披露されていました。

おしゃれでセンスも良く、穏やかで飾り気のない温かいお人柄を尊敬しておりました。ありし日の加藤さんの正直で、一途な生き方を想いこれから残された私の余生の心のささえにしていきたいと思えます。どうか安らかに眠り下さいませよう。心からお祈り申し上げます。



(浜田 光代)



荏田和子様(享年九十二歳)が七月十一日急逝されました。訃報を耳にして信じがたい思いでした。三十年以上にわたり活動され、しっかりしたお考えをお持ちの上でやさしいお人柄で私達団員に押しつけではなく、活動の方向性・奉仕の心を示唆していただきました。美月波流の踊りを長年続けていらつしました。スタイルがよく、綺麗に踊られていましたが、足を痛められ八十歳後半でやめられた後は短歌を詠まれ新聞にも投稿されていました。また若い頃から嗜まれていた絵画を晩年まで描きつづけられ、そのモチーフは「子供達」でした。荏田様の優しいお気持ちにじみ出る作品に心打たれます。長い間ありがとうございました。(門脇 芳子)

平成 30 年度上半期事業報告

1. 総 会
4 月 24 日(火) 日本赤十字社島根県支部
参加 12 名
講演・ゆかりの地巡り
「福田平治と与志の功績」石橋博氏
2. 対人地雷犠牲者救援街頭募金
5 月 8 日(火) J R 松江駅前 37,300 円
参加延 17 名
3. 赤十字運動月間広報キャンペーン
5 月 20 日(日) イオン松江店 参加 5 名
4. 全国赤十字大会
5 月 16 日(水) 明治神宮会館 参加 2 名
5. 日本赤十字社島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会
6 月 9 日(土) 日本赤十字社島根県支部
参加 1 名
6. 古布ふきんづくり
6 月 28 日(木) 日本赤十字社島根県支部
参加 12 名
7. 平成 30 年 7 月豪雨災害義援金贈呈
7 月 27 日(金) 日本赤十字社島根県支部
参加 5 名
8. 戦争犠牲者慰霊塔清掃・供養
9 月 28 日(金) 緑山公園
参加 9 名

平成 30 年度下半期事業計画

1. 松徳学院高校生とのふれあい交流会
10 月 10 日(水) 松徳学院高校(非常食作り)
2. 健康生活支援講習・古布ふきんづくり
11 月 20 日(火)
3. NHK 歳末・海外たすけあいフェア
12 月 16 日(日) いきいきプラザ島根
4. 年末義援金贈呈
12 月
5. ちょうちょキャンペーン
12 月～3 月
6. 松徳学院高校生とのふれあい交流会
2 月
7. 病院ボランティアメンバー交流会
2 月
8. 東日本大震災義援金募金活動
3 月 11 日(月)

通 年 活 動

1. 松江赤十字病院ボランティア
2. 松江赤十字乳児院ボランティア
3. 高齢者施設訪問(古布ふきん持参)
4. 赤十字社会員加入・会費募集
5. 特別義援金、救援金贈呈
6. 情報誌「レッドクロスみずうみ」刊行
7. 役員会



戦争犠牲者慰霊塔清掃・供養(緑山公園)

ハイゼックスを使用した災害非常食の作り方

この非常食はハイゼックスという熱に強い袋を使用して作ります。

- ① 洗った米、約 1 合と同量の水を袋に入れて、袋の中に空気が残らないように空気を抜きます。
- ② 輪ゴム等で袋の口を固くしばり、沸騰した鍋の湯の中に入れて 30 分程度炊き上げます。
- ③ 30 分程で袋が浮き上がってくれば出来上がり。その後、鍋の外に出して 5～10 分ばかり蒸らします。

あ と が き

立秋が過ぎてなおよ暑い日が続きます。七月上旬の、西日本を中心に広い範囲で発生した記録的な豪雨による災害、追いうちをかけるように記録的な猛暑日が続きました。

命にかかわる、と言われる暑さの中、失われた日常を取り戻すために懸命な努力をされる被災された方々、そして支援活動に従事される方々に心からお見舞いを申し上げると共に、一日も早い復興を祈らずにはいられません。

さて、ザレッドクロスみずうみ第四十五号をお届けいたします。

本号から、松本淑子編集委員長のものと新メンバーが担当させていただきました。団員の皆様をはじめ多くの皆様のみずうみ奉仕団に寄せていただく声を広くお伝えし、より良い奉仕活動につながる情報誌となるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

(池田)

ザレッドクロスみずうみ第四十五号

平成三十年九月三十日発行

発行者 松江市内中原町四十番地

日本赤十字社島根県支部内

みずうみ赤十字奉仕団

委員長 大塚 良子

電話 (〇八五二) 二一四二三七

編集委員

◎松本 淑子・梶 啓子

原田美智子・池田 裕子

小林 七彩

印刷所

株式会社報 光 社

電話 (〇八五三) 六三三三九三九